

BPT (バイオマスプロジェクトチーム) だより No.59

<http://www.pref.chiba.lg.jp/kankyou-kendo/kankyou/junkan/biomass/index.html>

平成23年9月20日

バイオマスプロジェクトチーム
(環境生活部資源循環推進課)

1. トピックス

平成23年度エコフィードコーディネーター設置事業

23年度から食品残さの飼料化を進めるため、千葉県畜産協会にエコフィードコーディネーター設置事業を委託しました。県畜産協会では、エコフィード利用推進委員会を組織し、エコフィードコーディネーターを設置することで、県と一体になって関係機関と連携を取りながら食品残さ排出業者とエコフィード製造業者・畜産農家のマッチングを進めていく予定です。

これまで飼料として利用されていなかった食品残さの飼料利用をご検討中の方は、当チームまたは県畜産協会(043-241-3851)までご相談下さい。

ボイラーにおける堆肥燃料混焼試験の実施

畜産堆肥の燃料化に関する研究を進めている畜産堆肥燃料化研究推進会議(太平洋セメント株式会社、千葉県他)は、4月19日から22日にかけて、ボイラー実機で豚ふん堆肥の混焼試験を実施しました。

今回の試験は、燃料として利用している木質チップを堆肥燃料に一部代替する形で行いました。排ガスについて問題を生じることなくボイラーの安定稼働を確保することができ、豚ふん堆肥を燃料として活用できることが確認できました。

今後は経済性について考慮しながら、地域に賦存するバイオマス資源の有効活用に向けて具体的な供給スキームの確立を目指していきたいと思います。



バイオマスボイラーでの堆肥燃料混焼試験 (排ガスの測定)



堆肥燃料の投入

千葉県バイオマス活用推進計画の公表について

県では平成15年から平成22年度を目標年度として「バイオマス立県ちば推進方針」に基づき、バイオマスの活用推進を図るための施策を展開してきましたが、平成21年に「バイオマス推進基本法」が制定されたことを受け、昨年度1年間をかけて関係各課とともに、更にバイオマスの活用拡大を図るための推進計画の策定作業を進め、7月27日に制定・公表いたしました。

策定作業に当たり御協力をいただいた関係各課の皆様方に、この場をお借りしてお礼申し上げます。

今後は、推進計画に基づき各種施策を推進してまいりますので、引き続き御協力をいただきますようお願いいたします。

バイオマス利用推進交流会の開催について

8月30日に、千葉市のきぼーる1階において、「バイオマス利用推進交流会」を開催しました。今年度は趣向を変えて、バイオマス関連事業者並びに研究機関の紹介ブースを設け、展示会形式でバイオマス利活用の状況について報告いただきました。

また、午後からは(独)農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究所の柚山上席研究員にお越しいただき、「バイオマスパワーを活かす」と題した講演会ならびにグループに分かれてのワークショップを行いました。



柚山上席研究員からは、バイオマスの利用とは何かということ、実際に市民との意見交換を行ってきた経験を通じて、具体例を示しながら御説明いただきました。

引き続き行われたワークショップでは、活発な意見交換が行われ、最後にはグループ

ごとに討論内容を発表していただきました。

1階の展示会と講演会を合わせて280名ほどの来場者がありましたが、次年度以降、さらに来場者を増やすような魅力ある交流会となるよう、綿密な準備を進めていきたいと思っております。



2. 国との連携

食品リサイクル説明会

関東農政局主催の食品リサイクル法に基づく定期報告等説明会が6月17日に開催され、県BPTから、バイオマスとエコフィードに関する説明を行いました。本説明会は年間排出量100トン以上の大口業者を対象としたもので、29事業所の担当者の方々が出席しました。

エコフィードに関しては、本年度から始まった新規事業「エコフィードコーディネーター設置事業」についても紹介し、エコフィード製造業者とのマッチングに関する協力

を依頼しました。

3 . 市町村等との連携

第 6 回市原市バイオマス利活用推進協議会

5 月 10 日に平成 21 年度から放置竹林の利活用を中心に検討を行う「市原市バイオマス利活用推進協議会」が行われました。今年度は、「房総半島の海岸環境保全活動支援事業」により、市内の河川の支障となる竹の竹チップ化と利活用を検討する予定です。

平成 23 年度第 1、2 回南房総市域木質バイオマス利活用検討会

5 月 23 日、8 月 24 日に「南房総市域木質バイオマス利活用検討会」が行われました。本検討会は、昨年度から南房総市での木質バイオマス利活用の推進のため行われており、千葉県森林組合、出光興産(株)が中心となって大型製油施設での石炭木質バイオマス混焼発電事業の検討等が行われています。また、今年度は市内の施設園芸農家を対象とした木質バイオマス暖房機の利用モニター調査事業が行われる予定です。

千葉市教育センター中学技術講座

8 月 18 日に千葉市立緑町中学校で中学校技術科教諭を対象とした研修講座で「バイオマスについて」の講義を行いました。千葉市では、昨年、市内の中学校技術科の先生がバイオマスプラスチックを題材にした研究授業を行っており、今回はこのプラスチック加工の実技研修も行われました。持続可能な社会を築こうとする態度を育てる技術・家庭科授業として非常に興味深いと思います。

4 . 関連業務

千葉県エコフィードコーディネーター設置事業 第 1 回利用推進会議

本年度 1 回目のエコフィード利用推進会議が 8 月 2 日に開催されました。本会議のメンバーは、エコフィード製造業者、畜産農家、研究機関、関係行政機関等で構成され、マッチングを主軸に据えてエコフィードの利用推進を目指しています。

エコフィードに関する情報交換が行われ、東日本大震災後の状況報告もありました。

この報告によると、震災直後に廃棄物の量が多くなったが、1 ヶ月を過ぎたら激減したとのことで、需要の減少による食品残さ排出量の減少を垣間見ることができました。

円高で多少は緩和されているものの最近のトウモロコシ価格の高騰が畜産農家に与えている影響は大きなもので、エコフィードに関する評価が上がっているとの報告もありました。

本日の会議の内容を踏まえて、エコフィードコーディネーターを主体にマッチングを進めてまいります。

バイオマス利活用施設における CO2 排出量削減効果の評価

南房総市の廃食油から BDF (バイオ・ディーゼル燃料) を製造・利用する取組について、CO2 の排出量削減効果を LCA により評価するための現地調査を、千葉県 LCA 協議委員である芝浦工業大学の栗島准教授および(独)産業技術総合研究所素材エネルギー研究グループの玄地グループ長、楊研究員の協力を得て、9 月 6 日に行いました。千倉町清掃センターでは、BDF 燃料の製造施設並びに製造工程を確認し、必要なデー

タやデータ処理方法についての意見交換を実施しました。

今後、意見交換に基づいて南房総市からデータ提供を受け、今年度中を目途に評価を行う予定です。

松戸市のバイオディーゼル燃料製造施設(松戸油田)においてゼロエミッション達成
戸田建設株式会社松戸工作所は、松戸市及びNPO法人等と連携して、市民や事業所から廃食用油を回収して、バイオディーゼル燃料(BDF)を製造しています。

この製造施設では、BDF製造に伴う過に使用した廃白土を廃棄していましたが、この度、船橋市で酪農を営む皆川牧場に堆肥調製用副資材として供給することになりました。廃白土は、堆肥調製時の副資材として人気のある資材です。

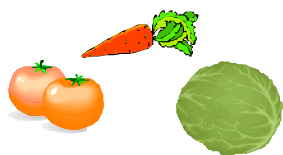
これまで廃棄されていた廃白土が活用されることで、本BDF製造については、関連資材を含めてもれなく有効活用されるゼロエミッションを達成しました。

皆川牧場では、良質堆肥を船橋市や松戸市の梨農家等に供給しており、BDF製造の取組が間接的に地域の農業生産にも貢献することになりました。



皆川牧場の堆肥製造施設

廃白土の利用により発酵が進み、良い堆肥が調製できます。堆肥はおいしい果物や野菜を育みます。



皆川牧場の牛舎

牛達は良好な環境で飼養されています。

酪農は牛乳の生産とともに堆肥を通じて地域の資源循環にも貢献しています。

5. 普及啓発活動

木質プラスチック普及活動の実施

下記イベントにおいて千葉県産木質プラスチック製品の普及等、バイオマスの啓発活動を行いました。

- ・6月11日: いんざい環境フェスタ(イオンモール千葉ニュータウン)
- ・6月16日: 南房総市富浦中学校環境学習教室
- ・6月18日: エコフェアーいちはら(市原市民会館)
- ・7月12, 13日: 「ASEAN+3バイオマスエネルギーフォーラム」(幕張メッセ)
- ・7月21日: 千葉県バイオ・ライフサイエンスネットワーク(ホテルポートプラザ千葉)
- ・8月1日: みどりの教室((社)千葉県緑化推進委員会)
- ・9月4日: エコメッセ2011inちば(幕張メッセ)



「ASEAN+3バイオマスエネルギーフォーラム」での展示